

新聞と県政

県政記事素材の提供

行政のPRということについて、最近は大分認識が改まってきています。これは喜ばしいことだと思えます。

行政というものは、究極は住民の福祉の増進を目的としているものだといわれますが、昔の封建社会は別として、現代では住民の理解と協力がなければ、行政はすすめてゆくことは出来ません。

住民の理解と協力を得るためには、そこに良い公衆関係の場を樹立しなければなりません。そのためにはいろいろな方法があります。その一つに自らの力です方法があります。

それぞれの部課において、説明会を開く。あるいはパンフレットを配布する。これらは特定の限られた人々を対象にしたPR（公衆関係樹立）の努力でしょう。

さらには総括された県政を一般県民に理解して貰うために、広報課というセクションがあり、「広報くまもと」とか、県庁アワー、県民の広場などのラジオ、テレビ番組等で広報されています。

ところが、これらには限られた予算と人員でしなければならぬ制約があります。広報くまもととは現在一万五千部を一般向けとして年六回発行しています。ラジオは週一回十五分、テレビは月二回十五分の番組です。

現代では、ともすればこれらの存在は、あふれるようなマスコミの中に埋没してしまふような感すらあります。私達は決してこれらの努力が非力だとは考えておりません。出来る限り、効果あるものとして努力をしています。

しかし広報の手段として、なにも手持媒体のみに頼る必要はないわけです。あふれるようなマスコミの協力を得ることが出来れば、さらに大きな効果をもたらすものと思えます。

そこで、現在新聞に県政記事がどの位掲載されているか調べてみました。

行政	広報	の	量
四	倍	の	量

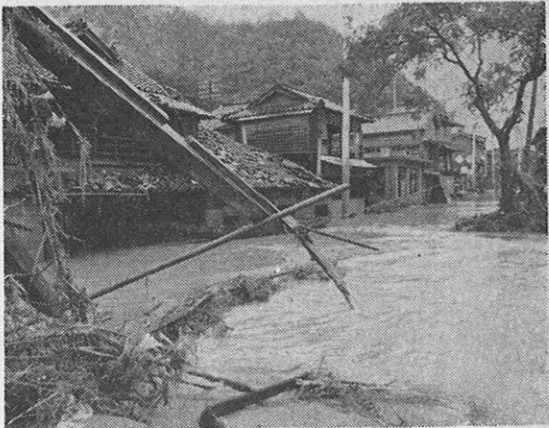
現在、本県の県政記者クラブに加盟している報道各社は熊日、朝日、毎日、西日本、読売、日経、共同、時事、NHK、RKK、産経の十一社があります。

このうち、NHKとRKKは放送関係、共同、時事は通信社、産経、日経は経済紙ですので、これらを除いた熊日、朝日、毎日、西日本の四社の県政記事を調べてみました。

対象とした時期は本年の五月中の記事です。これは六、七、八月が参議院議員の選挙や災害があり、一般的な県政記事としての普遍性がないからです。

また、ここで対象とした記事は県にその取材源を求めたものと考えられる記事のみに限定しました。

従って各社独自の企画ものや、各地便りといった短信欄はこの対象から除いています。また調査の対象とした新聞の版数は次のとおりです。



版が配達されているようです。版数が違えば記事の取扱いが、縮切等の関係で若干異ってくるのは当然で、ここで取りあげるのはあくまで先にあげた版に限られることを考慮していただく必要があります。

さて、この四紙の五月中の県政記事の総数は二二七件でした。一日平均七・六件の記事が出たことになり、平均すれば一紙約二件弱の見当です。

行数にして約九、一三八行で、一行が十五字ですから字数にしておよそ十四万字です。現在広報課で発行している広報くまもとは字数およそ三万から四万字ですから、字数だけでも三〜四倍の量があるわけです。

なお四紙の県内発行部数は合計およそ、二十七万四千部、月に八百四十九万部ですから県民の目にふれる度は膨大なものがあります。

大事な提供の

タ	イ	ミ	ン	グ
---	---	---	---	---

見出し段数別にみますと次のとおりになっています。

一段	六四本	五段	二六本
二段	四一本	六段	六本
三段	六〇本	計	二二七本
四段	三〇本		

参考までに版数について述べておきます。熊日を例にとりますと、版数が若い程、早く締め切られるもので、これは輸送等の関係、または地域の特色を考慮することで、農村部に配達される新聞は統合版といって、都市部で配達される夕刊がなく、朝、夕合わせたものをいいます。この統合版は農業関係の記事が都市部に配達される新聞より多く編集されているようです。

また三版は熊本市内などで、八代市が二版、本渡市、人吉市、水俣市などは一

新聞紙面は普通、下段に占める広告欄で左右されますので、記事段数は一定していませんが大体十段から十二段が普通のようにです。

そこで見出し段数が三段の場合、紙面の縦の長さの約四分の一を占める割合になるわけで、読者に与える印象は随分大きいものがあると思われれます。

まして五段、六段となると、紙面の約半分を占めていますからその印象は強烈です。参考までに五段以上の記事はどんなものがあつたか列挙しますと次のとおりです。

道路関係記事（三太郎の開通） 六本

防災関係記事 五本

観光関係記事（内阿蘇スカイライン関係二本） 三本

水防関係記事 三本

勲章退職関係記事 二本

種苗センター関係記事 二本

農業構造改善記事 二本

果樹特産関係記事 二本

天草架橋関係記事 二本

西津団地関係記事 二本

八代工業用地関係記事 一本

河川関係記事 一本

もつとも記事の取扱いは行事や事件が沢山あつた日、または少なかつた日などでも随分変わってくるもので、ここに挙げた記事も、これがいつでもこのような取扱いを受けるとは限らないわけです。新聞に記事素材の提供をするにも、時期を選ぶことは大切なことだと思えます。

次に各別記事の位記事が出ていたかをみてみますと次のとおりになっています。

総務関係 六一本

企画関係 九本

民労関係 二〇本

衛生関係 一五本

商工水産関係 三七本

農政関係 四三本

林務関係 五本

土木関係 三七本

記事に関する各課別のベストテンを挙げてみますと次のとおりです。

道路課、地方課、観光課、果樹特産課、農業改良課、人事課、防災消防課、広報課、職業安定課、農業構造改善課

この調査をした五月の特徴として、どんな県政上の事件や行事があつたか、主なものを挙げてみますと、

高令者の退職勲章が行なわれた。（実際行なわれたのは四月ですが、記事として出たのは五月一日です。）

交通安全週間が実施された。六月の参議院議員選挙に備えて明るく正しい選挙の推進運動が展開された。水害時期を控えて防災訓練が行なわれた。結核予防センターが落成開所した。各地で観光物産展が開かれた。阿蘇スカイラインの構想が発表された。愛鳥週間が行なわ